南アルプス
ユネスコエコパーク

令和３年度

南アルプスユネスコエコパーク推進事業
実　績　報　告

武川中学校中山ハイキング　中山展望台よりアルプスを望む

ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）」を目的として、ユネスコが認定する取り組みです。具体的には、「地域の自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指す取り組み」で、世界では「生物圏保存地域（BR：Biosphere Reserves）と呼ばれ、現在131カ国 727地域、うち日本では10地域が登録されています。（2021年9月現在）

南アルプスユネスコエコパークは、山梨県、静岡県、長野県にまたがる、日本最大のエリアを持つエコパークで、山梨県では、北杜市のほか、南アルプス市、韮崎市、早川町が登録されています。

総面積	302,474ha
核心地域	24,970ha
緩衝地域	72,389ha
移行地域	205,115ha

日本のユネスコエコパーク

南アルプスユネスコエコパーク

南アルプスユネスコエコパークは、
2014年（平成26年）6月12日登録！

南アルプスユネスコエコパークのエリア

エリアは、南アルプス国立公園を中心とした地域

➡ 北杜市は、白州・武川をエリアとして登録

核心地域

国立公園の特別保護地区など自然環境を守らなければならない大切な地域で、北杜市では南アルプス国立公園の地域で適切に保護されています。

緩衝地域

核心地域の周辺で、環境教育、野外活動、調査活動等に利用できる地域であり、山梨県立自然公園の地域です。

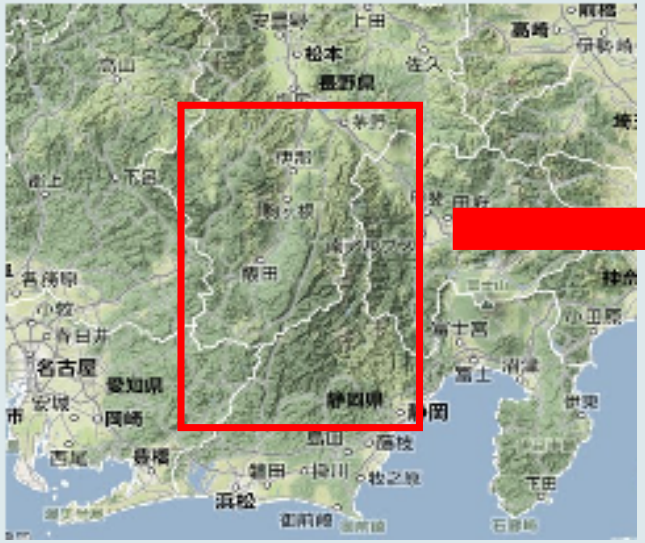
移行地域

私たちが暮らしを営んでいる地域で、様々な社会活動が行われています。

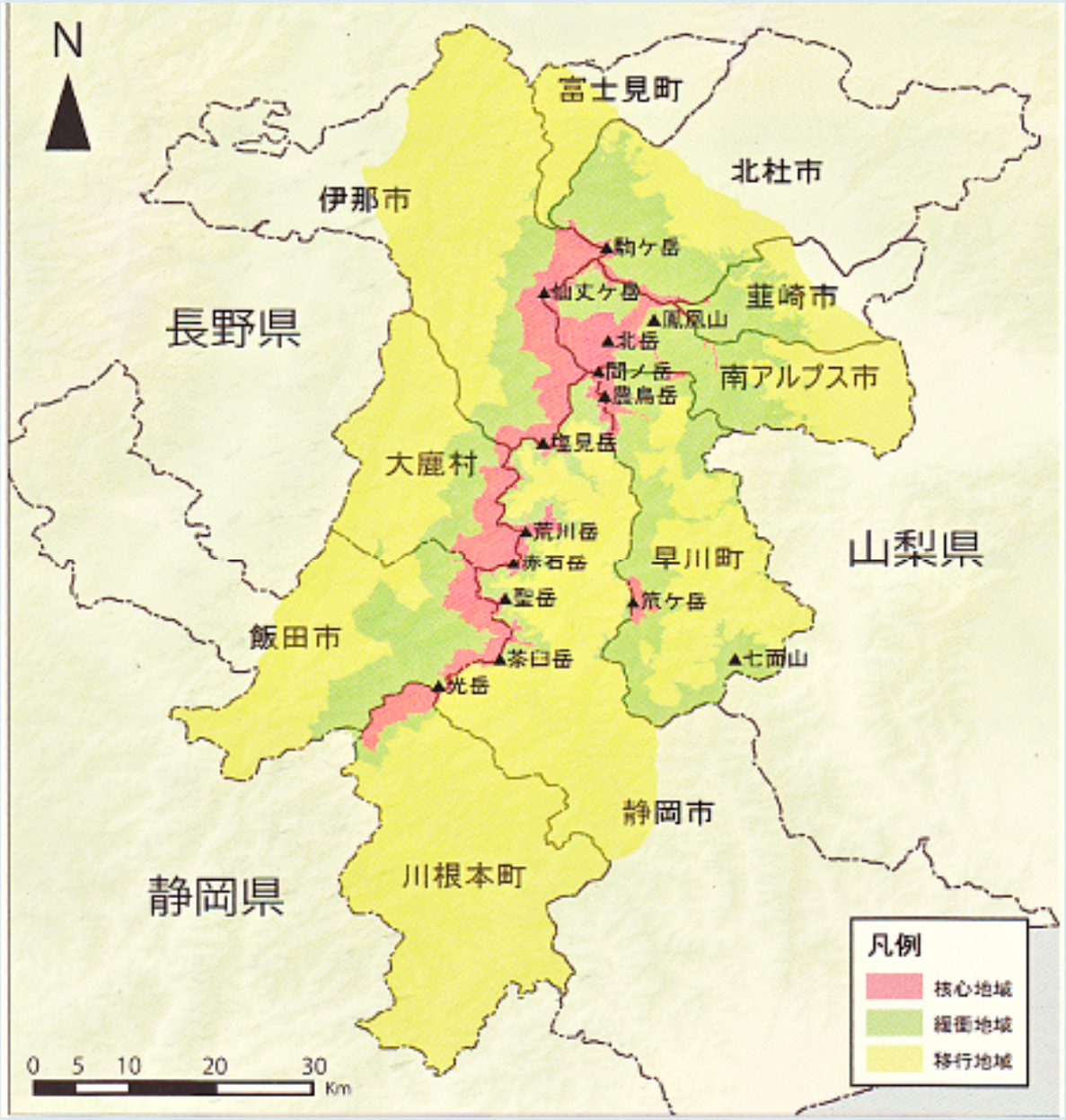
白州・武川エリアの資源

山	甲斐駒ヶ岳、地蔵ヶ岳、日向山など
景観	山岳景観日本一、尾白川渓谷、精進ヶ滝、桜、里山、田園など
水	清流（尾白川、神宮川、大武川、石空川など） ミネラルウォーター生産量が全国の約３割を占める
産物	米、そば、長芋など
歴史・文化	台ヶ原宿、神社、山岳信仰、民話、虎頭の舞、奉納相撲、大和神楽など

南アルプス
ユネスコエコパーク区域図



総面積　３０２,４７４ha



ユネスコエコパークの魅力は

- 南アルプスの山岳環境を永続的に保全していく体制づくりを行い、豊かな自然環境を守り伝えていくことができます。
- ユネスコエコパークとして、ふるさとの魅力を世界へ発信することで、国内外から観光や教育を目的とした旅行者の増加が期待できます。
- 新しい法律や規制はありません。国内の既存の法律などで管理されます。
- 環境教育や学術研究の実践の場として活用できます。

南アルプスユネスコエコパーク事業の目的

- 甲斐駒ヶ岳を中心とした世界に誇れる貴重な資源を再発見・再認識し、自然と文化のつながりを市民共有の財産として位置づけ、優れた自然環境の継続的、永続的な利活用をはかりながら、魅力あるまちづくりを進めることを目的としています。
（北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会規約より抜粋）

- この目的を達成するため、北杜市では市民、企業、団体、行政が一体となり、『北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会』を設立して、市と協働で事業を実施しています。

United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Minami-Alps
Biosphere Reserve since 2014
Man and the Biosphere Programme
ユネスコエコパーク

南アルプス
ユネスコエコパーク

令和３年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

事業名	科目	予算額	決算額
市①－⑴　森林整備等財産区活動支援事業	消耗品	1,270千円	1,195千円
市①－⑵　白州町地下水保全・利用対策協議会モニタリング事業	委託他	320千円	200千円
市④－⑴　ＰＲ・情報発信事業	消耗品	585千円	516千円
市⑤－⑴　関係市町村との連携事業	負担金他	1,228千円	1,150千円
地①－⑴　環境保全普及啓発事業	補助金	300千円	298千円
地②－１　文化継承事業	補助金	600千円	600千円
地③－３　動植物保全活用次世代育成事業	補助金	500千円	481千円
地④－⑴　地域の魅力掘り起し事業	補助金	600千円	352千円
地④－⑵　情報発信事業	補助金	150千円	95千円
地その他　その他	補助金	55千円	25千円

令和３年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

- 市①－(1) 森林整備等財産区活動支援事業
  - ■ 予算額 １,２７０千円 決算額 １, １９５千円

白州町並びに武川町内の財産区、保護組合の森林保全活動の支援を行いました。
豊かな森が、きれいでおいしい水を育み、里山の様々な活動に潤いを与えてくれます。下草刈りや樹木の枝払い、道つくりの環境整備などに必要な物品購入に活用しています。

- 市①－(2) 白州町地下水保全・利用対策協議会モニタリング事業
  - ■ 予算額 ３２０千円 決算額 ２００千円

地下水のモニタリング調査を行い、地下水位については安定的な状態で推移している。また、北杜市地下水の将来計画についての検討いただいた。

- 市④－(1) ＰＲ・情報発信事業
  - ■ 予算額 ５８５千円 決算額 ５１６千円

里山であり、活動の中心となっている中山に愛着、興味、関心を持てるようなノベルティを作成し、中山整備イベントや事業の参加者に配布しました。また、学習ノベリティの増刷などを行いました。

・ 市⑤－(1) 関係市町村との連携事業

■ 予算額 １，１２８千円　　決算額 １，１５０千円

ユネスコエコパークのエリア内にある10市町村で構成される南アルプス自然環境保全活用連携会議では、ユネスコエコパーク10年目の更新に向けて定期報告書の作成を行っています。イオン財団と連携しイオンフェアを企画しましたが、コロナの影響により中止となりました。今後はコロナに影響を受けないような形でフェアを開催し南アルプスの情報発信ができるよう進めていきます。

山梨県内の4市町で構成される南アルプスユネスコエコパーク山梨県連絡協議会では、各市町の取り組み事例発表会と南アルプス学講座をオンライン開催し、南アルプスユネスコエコパークについて知識を深めました。本市からは北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会の溝口文化・教育部会長が連絡会の活動紹介や昨年度実施した災害伝承碑の案内板設置について発信しました。

令和３年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

地①－(1) 環境保全普及啓発事業

■ 予算額　３００千円　　決算額　２９８千円

外来種等の駆除について、勉強会や調査を行いました。
これを元に来年度は実際に現地で駆除活動を実施していきます。
また、登山口に種子落としができるマット等の清掃と管理を行いました。

地②－１　文化継承事業

■ 予算額　６００千円　　決算額　６００千円

昨年度から伊豆半島ジオパークと事業連携について検討を行い、初めての試みとして、白州中学校と武川中学校に伊豆ジオパークから講師を招き、伊豆半島と白州と武川の地形がどのようにできているか様々な実験を通し楽しく学びました。
また、連絡会員が講師となり武川小学生に地層学習会を行いました。
伊豆ジオパークでの研修や寺院見学、座禅・写仏体験、精進料理食事会、寺僧による講話を聞ける「座禅・写仏体験と精進料理食事会」についてはコロナのため中止となりました。
甲斐駒にテーマを絞り、様々な角度から会員が情報収集し冊子にまとめました。歴史や文化を残していくため活用していきます。

令和２年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

地③－３　動植物保全活用次世代育成事業■ 予算額　５００千円　　決算額　４８１千円

動植物調査を活用し次世代を育成することや豊かな自然を認識してもらい、動植物を次世代に残していくため、動物、水生生物、植物の調査を行っています。

実施内容

回数	時期	テーマ	概要
第1回	７月	大武川の水生生物調査	武川小学校と連携し、舞鶴橋周辺の大武川において河川の生きもの調査を実施した。
第2回	１０月	尾白川の水生生物調査	白州中学学校と連携し、白州・尾白の森名水公園周辺の尾白川において河川の生きもの調査を実施した。
第3回	１０月	中山の植物調査	中山展望台や中山砦周辺において植物調査を実施した。
第4回	１２月～２月	中山の哺乳類調査	中山林道周辺で哺乳類の痕跡を観察するとともに、夜間に活動する哺乳類の実態把握を行った。
第5回	２月	中山の植物調査	コロナの影響のため、共同で行っていた同定調査は中止となり、事務局で同定を行った。

令和２年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

地④－(1) 地域の魅力掘り起し事業　　■ 予算額　６００千円　決算額　３５２千円

今年度は、初めてザノースフェイスと連携して近自然工法を使った登山道整備を行いました。近自然工法は、自然に近い方法を使って浸食を防ぎ生態系を保全する方法です。

中山周辺の林道の整備、下草刈り、登山道、砦や展望台の整備を行いました。

昨年から始まった学校との連携事業で武川中学校と全校登山を実施しました。中山砦の歴史や展望台から見下ろす地元、間近にある里山のすばらしさを伝えることができました。

長野県の武田信玄狼煙の会と狼煙リレーを行いました。今回初めて、長野県から甲府の躑躅ヶ崎館までつなぐことができました。

今年も中山展望台からの眺望をより一層魅力的なものとし、市内外からの誘客を図るために、展望台周辺に、中山に自生するつつじやモミジを100本植樹を行いました。

令和３年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

地④－(2) 情報発信事業

■ 予算額　１５０千円　　決算額　95千円

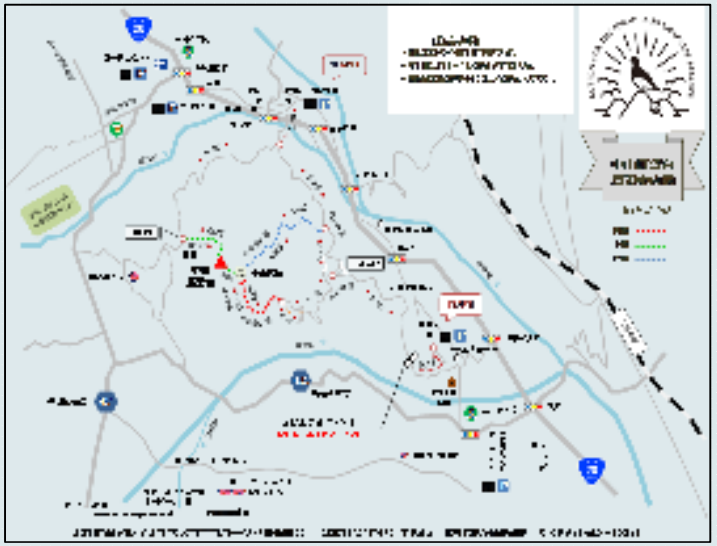
中山周辺を散策できるマップを作成し、狼煙リレーとともにチラシを作り、中山のPRを行いました。

また、甲斐駒の冊子を電子化しPRに活用していきます。

地その他　その他

■ 予算額　５５千円　　決算額　２５千円

会議や活動に参加した方の保険や会議の消耗品を購入しました。

南アルプスユネスコエコパークをＰＲし、このエリアの素晴らしさを市民に認識してもらうとともに、後世に守り伝えるため、市民、企業、団体と一体となり事業を進めていきます。

『中山展望台周辺案内図』